

りそな 経済フラッシュ

(日銀金融政策決定会合)

◎注意事項をよくお読み下さい



〇概況

- ◆ 日銀は本日の決定会合で当面の金融政策を現状維持とした
- ◆ 景気認識について「引き続き厳しい状態にあるが、経済活動が徐々に再開するも、持ち直しつつある」と見方を上方修正
- ◆ 新型コロナウイルスの影響と紐づけたフォワードガイダンスについても維持。日銀は当面の間現状のコロナ対応の政策を見極める局面が続くだろう

- ✓ 日銀は9月16-17日の決定会合で、「長短金利操作付き量的・質的金融緩和」の継続を決定した。主な政策は以下の通り。

主な政策		声明文	結果
長短金利操作	短期金利	日本銀行当座預金のうち政策金利残高に▲0.1%のマイナス金利を適用する	変更なし
	長期金利	10年物国債金利がゼロ%程度で推移するよう、上限を設けず必要な金額の長期国債の買入れを行う。その際、金利は、経済・物価情勢等に応じて上下にある程度変動しうるものとする	
資産買入	ETF J-REIT	ETFおよびJ-REITについて、当面は、それぞれ年間約12兆円、年間約1,800億円に相当する残高増加ペースを上限に、積極的な買入れを行う (原則はそれぞれ6兆円、900億円)	変更なし
	CP 社債	CP等、社債等については、それぞれ約2兆円、約3兆円の残高を維持する。これに加え、2021年3月末までの間、それぞれ7.5兆円の残高を上限に、追加の買入れを行う	

- ✓ 新型コロナ対応で行っている資金繰り支援特別プログラムやドルオペによる外貨の無制限供給についても特段変更はなし。

- ✓ 景気認識については、足元の経済情勢を踏まえて以下のとおり上方修正。一方で、リスク要因として「新型コロナウイルス感染症の帰趨や、それが内外経済に与える影響の大きさといった点について、きわめて不確実性が大きい」と指摘した。

景気	7月	今回見通し
現状	経済活動は徐々に再開しているが、内外で新型コロナウイルス感染症の影響が引き続きみられるも、きわめて厳しい状態にある	内外における新型コロナウイルス感染症の影響から引き続き厳しい状態にあるが、経済活動が徐々に再開するも、持ち直しつつある
先行き	経済活動が再開していくも、ペントアップ需要（抑制されていた需要）の顕在化に加え、緩和的な金融環境や政府の経済対策の効果にも支えられて、本年後半から徐々に改善していくとみられる	経済活動が再開していくも、ペントアップ需要（抑制されていた需要）の顕在化に加え、緩和的な金融環境や政府の経済対策の効果にも支えられて、改善基調を辿るとみられる

- ✓ フォワードガイダンスについても新型コロナウイルスの影響と紐づけた従前の文言から変更はなかった。景気認識を上方修正しつつも、「厳しい状態」との認識に変化がない中では、変更は時期尚早だろう。

	声明文	結果
フォワードガイダンス	当面、新型コロナウイルス感染症の影響を注視し、必要があれば、躊躇なく追加的な金融緩和措置を講じる。政策金利については、現在の長短金利の水準、または、それを下回る水準で推移することを想定している	変更なし

- ✓ 首相交代による金融政策への影響も注目されるが、菅新首相も現状の大規模緩和策についてアベノミクスを主張している。日銀は当面の間現状のコロナ対応の政策を見極める局面が続くだろう。

【出所】日本銀行

◎注意事項

当資料に記載された情報は信頼に足る情報源から得たデータ等に基づいて作成しておりますが、その内容については明示されていると否とにかかわらず、弊社がその正確性、確実性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容が事前の連絡なしに変更されることもあります。また、当資料は情報提供を目的としており、金融商品等の売買を勧誘するものではありません。取引時期などの最終決定はお客様ご自身の判断でなされるようお願い致します。

お問い合わせは、取引店の担当者までご連絡ください。